

平成 22 年 5 月 13 日

各 位

会 社 名 株式会社デジタルガレージ
 代表者名 代表取締役CEO 林 郁
 (JASDAQ・コード4819)
 (URL <http://www.garage.co.jp/>)
 問合せ先 取締役 経営管理本部長
 櫻 井 光 太
 TEL 03-6367-1111

特別損失の計上、平成22年6月期（連結・個別）業績予想の修正 及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成21年8月13日付「平成21年6月期 決算短信」において発表しました平成22年6月期の業績予想及び平成21年11月12日付「平成22年6月期配当予想の修正に関するお知らせ」において発表しました期末配当予想を、下記のとおり修正しましたのでお知らせします。

また、平成22年6月期第3四半期において、下記のとおり特別損失を計上することになりましたので、併せてお知らせします。

記

1. 特別損失の計上

(1) 平成22年6月期第3四半期における投資有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成 22 年 6 月期第 3 四半期会計期間（平成 22 年 1 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで）の投資有価証券評価損の総額（＝イーロ）	332 百万円	332 百万円
(イ)平成 22 年 6 月期第 3 四半期累計期間（平成 21 年 7 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで）の投資有価証券評価損の総額	332 百万円	332 百万円
(ロ)直前四半期（平成 22 年 6 月期第 2 四半期）累計期間（平成 21 年 7 月 1 日から平成 21 年 12 月 31 日まで）の投資有価証券評価損の総額	0 百万円	0 百万円

※ 四半期末における有価証券の評価方法は、洗替え方式を採用しております。

※ 当社の決算期末は、6月30日です。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B) 平成 21 年 6 月期末の純資産額	11,533 百万円	11,989 百万円
(A/B×100)	2.9%	2.8%
(I/B×100)	2.9%	2.8%
(C) 平成 21 年 6 月期の経常利益額	△1,079 百万円	537 百万円
(A/C×100)	—	61.9%
(I/C×100)	—	61.9%
(D) 平成 21 年 6 月期の当期純利益額	5,063 百万円	5,450 百万円
(A/D×100)	6.6%	6.1%
(I/D×100)	6.6%	6.1%

(2) 連結財務諸表における特別損失の発生及びそれらの内容

① 投資有価証券評価損

上記「(1) 平成22年6月期第3四半期における投資有価証券評価損」に記載の通り、第3四半期連結会計期間において、実質価額あるいは時価が著しく下落し、その回復可能性があるとは認められないと判断した投資有価証券について、投資有価証券評価損332百万円を特別損失として計上しました。

② 減損損失

当社の社内カンパニーであるディージー・アンド・アイベックスカンパニー（株）ディージー・アンド・アイベックスを平成20年10月27日に吸収合併）において、受託型WEBシステムの開発リソースをより成長性の高い「Twitter」を中心とするメディア・インキュベーション事業へシフトさせる事業構造の転換を進めていることに伴い、同カンパニーの今後の事業計画の見直しを行った結果、合併時に発生した同カンパニーに係るのれんを保守的に評価し、減損処理をすることとしました。

当該減損処理により、平成22年6月期第3四半期連結会計期間において、減損損失1,435百万円を特別損失として計上しました。

(3) 個別財務諸表における特別損失の発生及びそれらの内容

① 投資有価証券評価損

上記「(1) 平成22年6月期第3四半期における投資有価証券評価損」に記載の通り、第3四半期会計期間において、実質価額あるいは時価が著しく下落し、その回復可能性があるとは認められないと判断した投資有価証券について、投資有価証券評価損332百万円を特別損失として計上しました。

② 減損損失

上記「(2) 連結財務諸表における特別損失の発生及びそれらの内容 ② 減損損失」に記載の通り、ディージー・アンド・アイベックスカンパニーに係るのれんを保守的に評価し、減損処理をすることとしました。

当該減損処理により、平成22年6月期第3四半期会計期間において、減損損失1,435百万円を特別損失として計上しました。

2. 平成22年6月期（連結・個別）通期業績予想の修正等

(1) 通期連結業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	11,000	300	800	500	2,708円53銭
今回修正 (B)	8,180	△970	△470	△2,210	△11,971円70銭
増減額 (B-A)	△2,820	△1,270	△1,270	△2,710	—
増減率	△25.6%	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (平成21年6月期)	34,499	981	537	5,450	30,873円32銭

(2) 通期個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	9,500	100	150	50	270円85銭
今回修正 (B)	7,370	△810	△740	△2,580	△13,976円01銭
増減額 (B-A)	△2,130	△910	△890	△2,630	—
増減率	△22.4%	—	—	—	—
(参考) 前期実績 (平成21年6月期)	5,440	△925	△1,079	5,063	28,679円72銭

(3) 修正の理由

当社グループの事業は、広告プロモーション/Eコマースを事業ドメインとするハイブリッド・ソリューション事業、インターネットのメディア開発・運営を行うメディア・インキュベーション事業、海外を中心に投資活動を行うベンチャー・インキュベーション事業の3事業で構成されております。

ハイブリッド・ソリューション事業の平成21年における事業環境は、インターネット広告の制作費が前年比100.7%と横ばい(電通調べ)にとどまっており、特に大型の制作案件が減少傾向となり、中小規模のサイトリニューアルが増加(制作単価は低下)しております。一方、ソーシャル・メディアとのタイアップや公開されているAPI (Application Programming Interface) を活用したコンテンツ制作等の多様化が進んでおります。こうした背景から、当社グループ内の受託型WEBシステムの開発リソースをより成長性の高い「Twitter」を中心とするメディア・インキュベーション事業へシフトさせる事業構造の転換を進めております。これにより、WEBシステムの開発を担っていたディージー・アンド・アイベックスカンパニーは、リアルプロモーションとインターネットメディアを中核としたWEBビジネスに特化してまいります。

一方、メディア・インキュベーション事業におきましては、米Twitter社と資本業務提携し、日本で同サービスを展開しておりますが、平成21年11月30日に「Twitterカンパニー」を設置し、新しいソーシャル・メディアである「Twitter」の普及促進と早期の収益化に注力しております。

ハイブリッド・ソリューション事業における売上高は、①ディージー・アンド・アイベックス

カンパニーの売上高が、得意先企業の広告予算削減の影響を大きく受けたことに加えて、WEB制作を中心とした開発リソースを「Twitter」を中心としたメディア・インキュベーション事業へシフトしたことによりWEBシステム開発の受注額が減少したこと等の結果、当初の計画よりも約1,000百万円の未達となること、②WEB制作とプロモーションをセットにした大型プロジェクト案件が客先事由により中止になったことにより約1,000百万円の売上が見込めなくなったこと、等の要因により約2,000百万円の未達となる見込みです。また、メディア・インキュベーション事業における売上高も、上記②と同プロジェクトの中止等の要因により約700百万円の未達となる見込みです。以上のことから、当社グループの連結売上高については、前回予想11,000百万円に対して8,180百万円となり2,820百万円の未達となる見込みです。

連結営業利益については、前回予想300百万円に対して△970百万円となり1,270百万円の未達、また、連結経常利益については、前回予想800百万円に対して△470百万円となり1,270百万円の未達となる見込みです。主な要因は、売上高の減少によるもの、「Twitter」のユーザー数及びトラフィック拡大で当初計画を上回る運営・サポートコストが追加的に発生したこと等によるものです。

連結当期純利益については、前回予想500百万円に対して△2,210百万円となり2,710百万円の未達となる見込みとなりました。これは、上記「1(2)連結財務諸表における特別損失の発生及びそれらの内容」に記載の通り、投資有価証券評価損332百万円及び減損損失1,435百万円を特別損失に計上したこと等によるものです。

個別業績予想では、上記と同様の理由により、売上高は前回予想9,500百万円に対して7,370百万円となり2,130百万円の未達、営業利益は前回予想100百万円に対して△810百万円となり910百万円の未達、また、経常利益は前回予想150百万円に対して△740百万円と890百万円の未達、当期純利益は前回予想50百万円に対して△2,580百万円となり2,630百万円の未達となる見込みとなりました。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

3. 期末配当予想の修正等

(1) 配当予想の修正

基準日	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
前回予想 (平成21年11月12日発表)	—	0円	—	未定	未定
今回修正予想	—	0円	—	0円	0円
当期実績	—	0円	—		
前期実績 (平成21年6月期)	—	5,000円	—	5,000円	10,000円

(2) 修正の理由

当社は、株主に対する利益還元は重要な経営課題のひとつとして位置づけており、株主配当につきましては、当社の財政状態、業績の動向、今後の資金需要等を総合的に勘案して決定することとしております。

平成22年6月期末の期末配当予想につきましては、従来未定としておりましたが、上記の通期業績予想の修正を踏まえ、誠に遺憾ながら期末配当を見送ることとさせていただきます。株主の皆様におかれましては、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

以上